

平成25年度第1回下流域地域協議会の主なご意見

| 区分 | 意見内容 |
|-----------------|--|
| 自然地区の冠水状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥化によるヨシの衰退が進んでいるのではないか。 ・乾陸化の進行 = オギへの転換と一概には言えない。 ・時間をかけて検討するのなら、冠水状況を継続的に観察する必要がある。 |
| ヨシ刈りの必要性 | <ul style="list-style-type: none"> ・かつてツバメのねぐらがあったが、ヨシが回復すればまた帰ってくる。 ・少し整備するだけで子供たちの学習の場ができる。何らかの形で手を加えていくべき。 ・防火帯のような形でヨシを刈り取ることが、ヨシの維持、風物詩、不法占拠の抑制に繋がっていたかもしれないので、過度な整備をせずに開園と管理につなげていく答えがあるのではないか。 |
| 地元からの情報収集 | <ul style="list-style-type: none"> ・地元の郷土史に詳しい方に、農村集落と川とのつき合い方を聞いたら面白い。 ・薪や芝をとれる入会地的な利用が昔あったかどうかを聞けると面白い。 |
| 豊里自然地区の開園の考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ・都心にこのような自然景観が存在し、それを維持していること自体に公園的価値がある。 ・観察会を行うなら大人と一緒に入りましょう、という注意書き看板の設置程度でよいのでは。 |
| 児童の河川利用に対する安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・淀川河川公園を利用している学校はほとんどない。学校の意見を聞いてはどうか。 ・学校の先生は、子供が自然と触れ合う楽しさを知って、大人がいないときに川に行くリスクに不安を感じている。安全管理と遊びのバランスが課題である。 ・多数の子供がスポーツしに河川敷に来ている。小学生のころから学校で危険なことも教えてもらいたい。 ・水死事故は子供より大人のほうがずっと多い。子供の時に教育されておらず危険を自覚しなかったからである。 |
| 管理瑕疵の問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・不法占拠やつり場のような不法工作物で子供が事故にあったとき、周りが草では発見が遅れるのではないか ・事故に対する自己責任の仕組みづくり、過度に物で制御しない仕組みが大きな課題である。それを解決しないと開園面積は増えない。 |
| 舗装の撤去 | <ul style="list-style-type: none"> ・緊急用河川敷道路以外のコンクリートやアスファルト舗装は除去が望ましい。 |